

刑法問題用紙

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙は黒インクのボールペンまたは万年筆で記入してください。黒インクのボールペンまたは万年筆を忘れた者は監督に申し出てください。(黒鉛筆・シャープペンシルなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は4ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、あなたの受験番号の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

以下の事例に基づいて、甲・乙・丙の罪責を論じなさい。解答は、所定の解答用紙にしろせ。

【以下余白】

【事例】

フリーターの甲（21歳）は、某日午後9時頃、ほろ酔い気分で歩いて帰る途中、通りかかったアパート前のゴミ捨て場に、飲んでいた缶ビールの空き缶を投げ捨てて立ち去ろうとしたところ、付近を散歩中の乙（65歳）に「人のところに勝手に捨てるな」と言われた。甲はいらだち紛れに「うるせい、じじい」などと言い返ししながら乙の顔面を右のこぶしで一回殴って走って逃げ出した。乙は、顔面に打撲を負ったが、甲に謝罪させ、反省させようと思って100mほど追いかけて、酔いの影響から速く走れない甲に追いつくと、持っていた杖で甲の右肩を背後から1回強く叩いた。甲は、叩かれてバランスを崩して転倒し、右肩に打撲を負ったものの、すぐ起きあがり、乙が怖い顔をして杖を振り上げ迫って来ているのを見て、乙への怒りを強めるとともに、これ以上殴られてはたまらないと思って乙の腰や腹部を数回足で蹴るなどし、乙に加療約3週間を要する腹部腰部挫傷等の傷害を負わせた。そのころ、甲の友人丙（21歳）がたまたま通りがかったが、辺りが暗かったため、甲が杖を持った暴漢に襲われているように見えたので、甲を助けなければと思って、その場に落ちていた角材（3センチ角）を拾い、乙の杖を持っていた手を狙って殴りかかった。しかし、角材が乙の頭部に当たったうえ、乙はその衝撃で転倒して付近の縁石に後頭部を強打し、全治約3か月の頭蓋骨骨折等の重傷を負った。